

乙山

通報 八月十六日午前十時

一 本朝山間參謀ヲ軍使トシテ敵ノ要塞前ニ差遣セリ其目的左ノ如シ

其二 我大元帥陛下ハ 至仁ノ聖旨ヲ以テ放領要塞内ニ在ル婦人小児僧侶中兵國外交

官親戰料校等ニテ鉄火ノ害ヲ免レントスル者ヲ救護スベク命セラルル仍テ之ヲ要塞

司令官ニ告知スル為メ

其三 勅諭書ヲ送り要塞内ニ在ル陸海軍ニ開城ヲ促ス為メ

一 第二師團ハ昨朝未猛烈ナル砲撃ヲ加ヘ午前七時ヨリ同三十分マテノ間ニ於テ履盤溝東南方

約千二百米ノ高地及小東溝東方標高181(三分分一)地以テ(点)ヲ占領セリ之ヨリ前進ヲ継続

スルヲナシ同地附近ヲ堅固ニ守備ス

三 昨夜聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ通報アリ

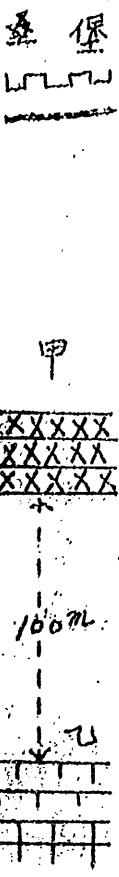
昨十四日午前我第二艦隊ハ蔚山沖ニ於テ浦塩艦隊三隻ト衝突シ劇戰五時間ニ亘リリウリ

ユツクニシテ較シ沈シ其乗員約六百ヲ救助シ他ニ艦ハ大損害ヲ蒙リ北方ニ遁走セリ我艦隊ハ損害

極メテ少シトノ報アリ

四 昨十四日第九師團ニ於テ投降露兵三名(猶太人)ヲ糾問スル結果要塞防備閉シ左要件ヲ得タリ

其一 鉄釜個々多クハ二重ニテ其配置左圖ノ如シ



甲ノ尋常鉄釜個々十ニ七ニテ六層樓ヲ通ス而シテ而シテ其構築法A B C各条ノ鉄線Cノ上線ハ
 銅下線ハ鉄ニシテ悉ク蓋子アリ各線ハ稜形ヲ為サシテ直線形ナリ通常午後八時頃ヨリ翌
 拂曉迄電流ヲ通ス祭電所ハ旅順市内ニ在ル其位置ヲ知ラズ

其二水師營東方高地ノ新堡壘ニ野砲四門步兵隊アリ又其南方ノ小堡壘ニ野砲二門海軍

小口至砲二門アリ
其三極開砲ハ松樹山附近ニ七門其他ノ各砲台ハ各ニ門完アリ

其四地雷ノ各砲台前及其左右ノ凹地ニ埋設シテリ殊ニ多キハ龍眼附近ニシテ約五六十個アリカモ以上
悉ク電氣裝置ニテ電線ハ地下ニ三十冊米ノ処ニ在リ其位置ハ雜草叢生セラルヲ以テ之ヲ
察見スルニ容易ナリ

其五砲彈ハ一門平均約三三百發ニシテ補給ノ道ナレ殊極嚴密ニ欽之モリハ砲彈ハ乏ヒカラス
其六堡壘ノ後方彼郭附近ニ中約五米冊約三米ノ水壕アリ水深ハ五六十冊米ナリ
其七步兵主力ノ位置明カラス約三天隊ハ砲臺南方凹地ニ在リ

其八各砲台ニ步兵中隊乃至一中隊ナリ門ノ砲ニ砲手ニ四右ヲ附セリ
其九我海軍砲ノ砲擊ノ數日前海軍新油倉庫ニ命中シテ之ヲ燒棄シ爲ニ彼ノ海軍
ニ少カラサル困難ヲ與ヘ其他數個ノ建築物ヲ破壞シ又某軍艦ニ命中シテ將校一
士卒十餘名ヲ死傷セリ

其十板垣ニ猶太人及波蘭人ハ約千名ニシテ時機ヲ得ル毎ニ逃亡セトス然レモ純粹ノ露
人ハ決戦ヲ期スルカ如シ

第三軍參謀長 伊地知幸介

左ノ如ク軍工兵部長ヨリ意見呈出相成候間又通報候也

突撃縦隊鐵條柵通過ニ関スル考察

一本体、今四俣虜ノ告白スル所ノ鐵条柵ハ敵ノ堡壘線最外部ノ障壁ニシテ三列ニ編成ス其各列ハ二十歩ノ間隔ヲ有スル諸杭ト之ニ連繫セル三層ノ鐵線トヨリ成ル但シ其最外列上方一線ハ径約八密米ノ銅線ニシテ杭ト連繫セル所ニ碍子ヲ戴キ其下方ニ鐵条一線アルナリ

ニ性竹具、別紙攻城工兵隊長ノ所見ノ如クニ様ニ觀察セリ然レモ攻撃動作ヲ為メハ電氣ノ強壓ヲ以テ人馬ヲ殺傷セント企圖セルモノト考フルヲ可トス

本防衛線ノ周囲ニシテ延長著大ナル最外部ニ強壓ノ電氣ヲ送ルハ大規模ノ發電機関ヲ要ス故ニ其發電所ハ一ヶ所ニ止マラス切電源ノ餘剩ヲ以テ尽ク之ヲ注入スルモノト思料スヤレ

柵一部ニ破断ヲ施スモ両方向ヨリ来ル電流ノ往還ハ依然トシテ繼續スルモノト見做スヤレ

三、破壞ノ要領、故ニ突撃縦隊ノ為メニ進路ヲ開クニハ少クモ井列セル両杭ノ位置ニ就キテ

鐵條ヲ切断シ以テ其鉄條放端ノ地線ニ入ルモ中間ノ区域ハ安全ナル如クスルヲ要ス

切断ハ強装薬ノ爆破ヲ主用スヤレ

一、茂火具トシテ雷管ヲ用ユルヲ安全ナリトス

而メ鐵線ノ放端ヲ扱フニ、隔縁セル器具ニヨル別ニ法アリ他ノ鉄具ヲ以テ電流ヲ誘導シテ地下ニ躲開セルムルト是レトシ但シ此方法ハ所要鉄具ノ導電力所在ノ者ヨリモ優レルニ非レバ精確ヲ期シ難シ

四、器具準備、乃チ爆破ノ切斷ヲ行ハシテ準備トシテ鉄條鉄鋸其他便宜使用ス

下チ木柱ノ類ニ至リテ電気不導體ヲ以テ其板部ヲ巻キテ要ス

野外ニ於テ容易ニ得ラルキ不導體ノ品ハ竹、麻、絹、絲、羅、紗、日本紙、西洋紙ノ類ナリ

電流ノ通否強弱ヲ驗知スルニ磁石例ハハコリナトワールルノ如キモノヲ携行ス

五、實施上ノ細件、突撃隊ノ先登ニ兵分隊長ハ電氣學ノ素養アルモノヲ以テ之ニ

充テ障礙線ニ到リシ時從令ニ兵士官ノ区處ヲ得ルニ鉄條上電流ノ通否ヲ驗知

スルヲ要ス

爆破ノ威力ヲ減ラサル為メ面杖ノ所ニテ同時ニ爆破スルヲ可トス

爆破法ヲ採用スルハ前記ノ検査ハ必要ナラサルカ如シト雖モ検査ハ只數秒時ノ間ニ

之ヲ終ルハク且ツ後刻鉄線ノ放端ヲ取扱フニ關係アルヲ以テ豫メ検査スルニ

如クハナシ而シテ電流甚ク微弱ナルトテ察見セハ鉄斷ヲ行フモ亦利ナレバナリ

八月十六日

第三軍參謀長 伊地知 幸介

三軍通乙第十一號

明治三十七年八月十二日

第三軍參謀長 伊地知幸介

海軍陸軍部 陸軍部 陸軍部

謀報ニ據リ旅順要塞ノ内部ニ於テ情報ニ関シテ諸件ヲ知ル

旅順要塞内部ノ情况

一 要塞内部ニアル兵舎

(い) 西太陽溝西方ノ高地脚

兵舎七棟

(ろ) 北太陽溝

兵舎六棟

(け) 北太陽溝ノ西方

兵舎五棟

(に) 陣家屯附近

大兵舎十七棟

(ほ) 黄金山東麓

兵舎八棟

(へ) 莫珠嶼新砲台ノ西方

兵舎三棟

(と) 芥菜溝ノ北方

大兵舎十一棟

右) 塔連北

目下ステウセル將軍ハ関東總督存ヲ去リ黃營兵舎内ニ在リト云フ

一 要塞内部ニアル火薬庫ノ位置

- (イ) 三里橋 火薬庫 一棟
- (ロ) 武庫 火薬庫 一棟
- (ハ) 武庫南方隘 火薬庫 一棟
- (ニ) 黃金山東北麓 火薬庫 一棟
- (ホ) 老虎尾元魚雷營 火薬庫 一棟
- (ヘ) 老虎尾黒以溝 腎囊式火薬積貯所 五個所

二 要塞内部ニ在ル糧食倉庫

- (イ) 敵場溝南方ニアル大倉庫

蕎麥粉、大麥、白麵ヲ収蔵ス

(3) 款場灣ノ西北方ニ在ル靈神廟下ノ支那商人、長々六間、六月旬ニ麦粉約五万包(百斤封度)ヲ蓄積ス

(4) 紀鳳台磨粉所ノ前方空地(百斤封度附近)ニ、麦、粟、蕎麥等ヲ蓄積ス

紀鳳台磨粉所ニ用テ製粉原料ハ鴻灣沿岸ノ小揚家村ニ在ル支那ヤンクノ人隻ヲ、徐州地方ヨリ運ビ来レリト云フ

(11) 白銀山北ノ武庫内、蕎麥、粟等ヲ收藏ス

(12) 白銀山嶺際ノ西南方ニ在ル支那商人、米、麦粉ヲ收藏ス

(13) 白銀山嶺際ノ海岸ニ在ル米商旭洋行、五月旬ニ麦粉約一万包(百斤封度)ヲ收藏ス

(14) 白銀山嶺際ノ海岸ニ在ル米商旭洋行、五月旬ニ麦粉約一万包(百斤封度)ヲ收藏ス

(15) 太陽濱新市街北方ノ陸軍倉庫、蕎麥、粟等ヲ收藏ス

此在庫品ハ開戦後西海岸ヨリ密輸入シタリト云フ

穀類ニ在リテ、程々之ヲ蔵シ居ラサルカ如キモ、副食物ニ至テハ困窮甚シク、附近村落内ノ牛、鶏等ハ去ル七月上旬ニ於テ已ニ悉ク喰尽セリト

物價一時非常ニ暴騰シ、麵粉五十封度入一袋、魯銀九留ニ大根一本ニ仙五厘ヨリ三仙ニ

葱、瓜、茄子、一作五十仙餘ニ上リタル一アリシモ、其後其米ヨリノ密輸入船續々入

港ニタリテ、以テ麵粉ノ如キハ一袋六留迄下落セリ

四要塞内部に在ル病院ノ位置及其形況

伍

置

収容ノ得ル傷病兵ノ概數

(一) 大陽瀋陽銀行南方に在ル魯國料理店ノ大樓

一千餘人

(二) 大陽瀋陽に在ル関東參謀本部

五百餘人

(三) 西大陽瀋西方ノ新築廠舎 七棟

五百餘人

(四) 塔子溝北城南方ノ樓房

五百餘人

(五) 白土山東麓に在ル衛隊病院

旧病房十棟
新築病房數棟

三千人

(六) 海軍病院

二千人

(七) 趙家溝に在ル陸軍病院

一千人

(八) 黄堂ヲ病房ニ改造シタル者

四棟

(九) 教場溝ノ新築病房

五棟

以上諸病院ハ去レ七月中旬に於テ已ニ殆ニト全部騰滿自レ其後運搬ニ來レル傷病兵
ハ教場溝ノ大平街、興隆街附近ノ民家ニ収容シツ、アリ

五、旅順停車場内ニアル車輛及ヒ戰用品

漁罐車

三輛

客車

四十餘輛

貨車

三十餘輛

火砲及彈藥

若干

病兵用人車及擔架

若干

或ハ云フ目下停車場ニ概關車六輛、客車貨車二百餘輛アリト

六、石炭ノ蓄積所

(一) 黄金山北麓

軍艦用

(二) 白玉山南麓海岸

鉄道用

(三) 老虎尾

工廠用

七、一般市民ノ風説

目下旅順ニ在ル支那人ハ魯軍用達商人ハ商人、苦力等合計三千餘人トシテ

彼等風説扱ハ露兵ノ境過ハ頗ル可憐ノ事ニテ何レモ白旗ヲ擲テ日本軍ニ
下ルヲ期シラアルモ申將某及砲台指揮ニ任セル大佐某ハ非常ナル死守論者ニテ
戰アル毎ニ黄金山砲台上ニ曝露シテ部下ヲ督励レ振ワテ士氣ヲ鼓舞シラ
アルヨリ僅ニ今日迄支ヘ来リタルモノニテ若シ能ク此大佐一人ヲ失ハ、全軍ノ降
伏期シテ待ツベキナリ當地ニ糸行スル関東報ノ所説ニヨシハ鴨綠江岸
ノ戰ニハ日軍ヲ試シ金州ニテ八月軍ヲ妨害シタルニ魯軍ノ活動スルハ今日
以後ニ在リト會々得利寺ノ大戦一敗地ニ塗レ又前日ノ如キ虚心平意ヲ
装フモノナリ今ヤ已ニ南下救援ノ望全ク絶ヘタリトテ駐屯諸兵ノ失望
一方オラスト云フ

0201

三軍副 第四三八號

明治廿七年八月廿七

第三軍副司令吉岡友愛

海軍陸戦隊佐々木格捕方里つ井悌次郎殿

別紙に修表三通及び送付書也

第三軍司令部

0202

陸軍部

第九師團		第一師團					部 隊		
死	傷		死	傷		死	傷	死傷	
將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒		
八	五 六 八	三 一	一 三 六	四	一 九 一	一 〇	二 九	三	廿六、七、八日
	二		六	一					廿九日
	八 四 三	三 〇	一 一 四	六	一 一 二	一 〇	七		三十日
									三十一日

七月廿六、七、八日及三十日 戦 闘ニ於ケル 死 傷 表

0203

野戰砲兵第1後團				後備歩兵第1旅團				第1師團		
傷		死		傷		死		傷		
下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒
三七	三	六		四五七	一三	一四四	三	九七五	二二	一九五
								三九	二	六
								一	一	

0204

備考

特務曹長 将校中 算入

合計		野戰重砲兵聯隊				徒花砲臺聯隊			
傷	死	傷		死		傷		死	
		下士卒	将校	下士卒	将校	下士卒	将校	下士卒	将校
二 三 一 四	五 二 八					一 六	一		
五	七								
一 〇 三 六	一 三 五				二				
二									

0205

自七月二十二日
至同二十八日
死傷將校名簿
(特務隊長 倉)

戰死將校

第一師團

歩一三 少佐 高松公重

同 少尉 寺田行藏

同 同 駒嶺忠男

第九師團

歩一三五 大尉 石川鶴男

同 中尉 高堂作治

歩一十九 同 鈴木恭次郎

歩一三五 特務隊長 高橋善男

第十一師團

歩二二 中尉 菅正

同 同 吉田貞市

歩一ニ 少尉 松本喜一

歩二ニ 同 八田雄次

歩二ニ 特務隊長 井下義敬

歩四四 同 村上藤濠

砲二一 中尉 林正富

同 少尉 高石栄吉

後備步兵第一旅團

後歩一六 大尉 溝口 晋

同 少尉 名川 真澄

同 特警長 田中 六藏

員傷將校

第一師團

歩一三 大尉 守永 弥惣次

砲一 中尉 岩崎 孝太郎

同 一五 中尉 小曾 根千八

第九師團

同 少尉 赤沢 伸次

同 少尉 深作 恒三郎

歩一五 大佐 佐治 為善

歩一三 同 幸野 清

同 大尉 船木 政太郎

同 同 荒井 久米八

同 同 塚本 松吉

0207

砲一七 中尉 松本 喬 佐 佐上 木新助

同 同 古谷 清 打衛不明

徒歩砲兵隊 歩一五 少尉 植田 行直

七月三十日 死傷將校名簿 (特務曹長 3 名)

戦死將校

第九師團

歩一七 中尉 岩田 外幾治 歩一三五 少尉 木本 辰次郎

同 同 青武 忠吉 同 同 大村 義雄

同 少尉 中池 忠力 野 砲 皇 砲 兵 聯 隊

0211

大佐 酒井甲子郎

少佐 大林角太郎

負傷將校

第一師團

歩一 少佐 長堀 均

同 大尉 松木 直亮

歩五 同 本多 憲

歩一 中尉 野村 幸吉

同 同 松本 恒吉

同 同 深沢 熊太郎

歩二 同 進藤 孝平

歩三 中尉 手塚 魁三

歩二 少尉 植原 啓次郎

第九師團

歩五 大佐 中村 正雄

同 大尉 後藤 貞雄

同 同 田中 武雄

歩七 同 五十嵐 孝一

同 同 河上 清吉

0212

步一七	大尉	奥泉欽次郎
步三九	同	大海友次郎
步三五	中尉	篠田次助
同	同	上田半藏
同	同	篠原義久
步一七	同	村井文太郎
同	同	系 秀雄
同	同	田口 暢
同	同	大澤 勉
步一七	同	高橋 義衛
步三五	少尉	佐々木 松
同	同	同
步三五	少尉	牛田 親次郎
同	同	中林 貞治
同	同	篠原 三郎
同	同	田口 鶴助
步一七	同	板坂 順次
同	同	竹下 健
同	同	宇連 政之助
同	同	淵田 寛章
步三五	特務員長	中村 正
步一七	同	野村 長藏
同	同	沢田 豊藏

0213

歩、七 特務曹長 上野豊藏

歩、三六 同 堀江壽吉

砲、九 少尉 開田政藏

工、九 同 山浦弘

七月二十九日

戦死 歩、七

少尉 村上作次郎

七月三十一日

戦傷 歩、四四 少尉 後藤武治

第十一師團

歩、四四 大尉 留守昌次郎

歩、二二 中尉 中城虎雄

歩、四四 特務曹長 原真喜

0214

第三編 前編

0215



備考

一 諸君の御覧入

將校准士官死傷者名簿

筆榻板用紙

第百三十三隊

今中尉 松村安雄

戦死少尉 三好政太郎

今中尉 上村長治

今特務 龜井總太郎

今中尉 栗田勝次郎

重傷中尉 瀨川國男

今少尉 久野定吉

今少尉 中島實衛

今中尉 井山 融

今中尉 白石昌治

第百三十三隊

戦死少尉 伊賀真金次郎

戦死大尉 沼田治郎

戦傷中尉 井生清治

今中尉 丸本篤太郎

戦傷少尉 島田止郎

重傷少佐 久野 康

全 大尉	全 大尉	全 少尉	全 少尉	全 中尉	全 少尉	全 中尉	全 少尉	全 少尉
荒井 邦雄	新山 良知	古澤 正義	本城 剛三郎	北原 信次	真井 謙吉	市田 太郎	市田 太郎	山中 築夫
全 大尉	全 少尉	全 中尉	全 大尉	全 少尉	全 少尉	全 大尉	全 大尉	全 中尉
瀧田 楠彦	阿久津 清	森田 健輔	白井 謙吉	片山 久太郎	中田 博次郎	水室 新藏	水室 新藏	橋本 龍之助

0219

全大尉	長尾恒吉	全大尉	山崎繁樹
全大尉	松田五十二	全中尉	喜田卯吉
全大尉	林原信市	全中尉	笠原於菟友
全中尉	入江九郎	全中尉	根本吉三郎
全中尉	岡崎步余	全中尉	野口 矯
全中尉	松井策雄	全中尉	野上継志
全中尉	中村為五郎	全中尉	亀井駒三郎
全中尉	辻 権作	全中尉	尾崎清幹
全特務	川崎参吉	全大尉	浅見新六
全中尉	伊藤南海士	全中尉	小野弥三郎

筆榻板用紙

0220

右々外九日五兵第十大隊大村上一衛ハ地雷ノ爆飛依リ
戦死又七月十六七八日戦開ニ於ケル負傷中徒歩砲
兵獨立大隊下出卒三ツ公三十日戦開ニ於ケル負傷中
全大隊員尉鈴木安之助及下士卒卒四ヲ追加ス

0221

海軍省 陸軍省

自八月三日夜
至本月十日夕

第一師團方面戦開死傷表



筆搦板用紙

衛生隊	工兵第一大隊	野戰砲兵第一聯隊	騎兵第一聯隊	歩兵第二旅團	歩兵第一旅團	部隊	區分
					六	將校	戰
		六			一〇六	下士卒	死
	一	三	一		二三	將校	負
三	一〇	二三		六	三五八	下士卒	傷
					三五	下士卒	失踪
三	一一	三二	一	六	五二八		計

0222

全	全	全	全	全	全	輕傷	全	全	全	全
全	特務曹長 藤波八五郎	全	少尉 笠原綱	全	全	大尉 高坂順吉	全	特務曹長 黒瀬悦作	少尉 工藤信史	中尉 九條舜磨
全	朝比呂轍	全	少尉 小野田春九	全	全	水戸部源	全	小林鬼太郎	全	全
全	微傷	全	輕傷	全	全	野戰砲兵第一聯隊	全	傷重	全	微傷
少尉 説田繁次	中尉 岩田恒房	少尉 中岡弥高	中尉 林貞三	少尉 高橋秋秀	騎兵第一聯隊	特務曹長 安藤保	少尉 大森平太	中尉 小曾根十八	大尉 山越薩三郎	

筆
榻
板
用

0225

傷状 中尉 築山乙亥治	疎時衛生隊
全 特務曹長 里野九平	輕傷 二等軍医 中村正巳
後備歩兵第十六聯隊	
重傷 少尉 岩淵岩太	
輕傷 全 関口真太郎	
追加 本月七日後備歩兵第四旅團幕管地、於テ敵彈、爲ノ 少尉向井九太郎重傷ヲ負ヒ、兵卒戰死一員傷三ヲ出セリ	

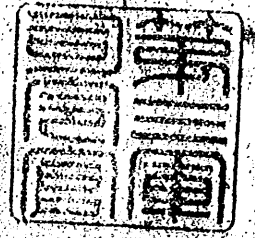
筆榻板用

0227

三軍副 四四一號

明治三十七年八月十七日 第三軍司令官 乃木 兼 次郎

陸軍砲隊指揮官 黒井 博次郎 附



今般

兩陛下ヨリ 鹿島司侍從武官

皇太子殿下ヨリ 園内東宮武官ヲ 特ニ差遣ハシ 右ノ

御沙汰及 今旨ヲ 拜受ス 仍テ 部下一般ニ 傳達ス

御沙汰ノ 覺書

第三軍ハ 困苦欽也 堪ハ 連戰連捷ニ 趣

兩陛下ノ 上聞ニ 連ニ 第三軍將校下士卒 勇武ニ 御

満地之思... 御幼太... 武官之差... 自愛護... 努力...

令旨ノ覽書

第三軍ハ天險ニ據ル敵ニ對シ連戰連捷之ヲ其本防禦線
内ニ壓迫シ攻城戰期ヲ進拂ヒタルハ閣下如ク將校下士
卒忠勇ノ致ス所

皇太子殿下深ク御満足ニ思召レルト同時ニ死傷者ニ對
シテハ厚ク御哀憐在リセラル時下炎暑ノ候各自自愛自重
能ク健康ヲ保全シ以テ終局ノ奏功ヲ望ム給フ

三軍通口第十三號

明治三十七年八月十七日

第三軍參謀長 伊地知幸介

黒井中隊隊長 野矢 辰

旅順方面ノ情報ハ如シ

本月上旬以來聴取シタル大ノ言ヲ綜合スルハ概不左ノ如シ
砲台番号ハ松樹山砲台ヲ五号ト東
方ニテ遂次番号ヲ附ス例ヤハ三龍山砲台ハ第二号車鷲冠山ハ第六号砲台ナルガ如シ

一 五号砲台ヨリ以兩砲台ハ五号砲台之ヲ指揮シ六号砲台ヨリ以南ノ砲台ハ六号砲台之ヲ指
揮ス

二 東及北正高各砲台ノ前方斜面ニ存在スル地隙ニハ地雷アリ

三 松樹山砲台ノ西南ニ新築砲台アリ内ニ野砲六門アリ又其西南ニ小砲台アリ機關砲五門ヲ

有ス

四 三龍山砲台ト其東方第三号砲台トノ中間ニ在ル道路ノ兩側塹壕線各側二門(計四門)

機関砲

五、五家房西南高地ノ斜面ニ小砲台アリ内ニ野砲四門ヲ配置ス

六、望台西北高地ノ臨時砲台ニ加農三門、東鷄冠山西北高地ノ臨時砲台ニ加農三門

東鷄冠山西方臨時砲台ニ加農二門アリ以上加農ハ何レモ海軍砲ナリ

七、松樹山及ニ龍山砲台ハ外壕アリ深幅共ニ約二丈外岸坑路及砲台下ノ蔭蔽部

ヨリスル射撃ニ依テ壕内防禦ヲ編成ス

八、五号砲台ノ外壕深幅ハ五米計ナルガ如ク土人ノ言ニ依テ推測ヲ下セバカホニエール

ヲ構成セルモノ、如シ

九、三号、四号砲台ノ外壕ハ僅カキ巾四尺深サ人肩ニ達スルニ過キズト云フ土人トニ龍山砲

台ノ外壕ト同一ト云フ土人各ニ名アリテ未タ真状ヲ推測シ難シ

十、砲台ノ外斜面ニ在ル塹壕ハ第一号砲台ヨリ第八号砲台迄ハ上下ニ線、第八号砲台

以南ハ一線アリト云フニ龍山附近ニ於テハ其上方塹壕ハ火線ヨリ壕底ニ至ル迄約一

米四五十ノ高サヲ有シ上方ニ掩蓋ヲ有ス下方ノ塹壕ハ断面上者比シテ小又掩蓋無シ

一説ニ依レバ本月二日八里庄ノ家屋ヲ破壊シ掩蓋ヲ作リツアリシト第七号砲台附近
ニ在ラハ上下共掩蓋ナシ只彈藥ヲ置ク部分丈掩蓋ヲ構造シ砲台塹壕ハ暗路或
ハ塹壕ヲ以テ連落ス

土、去月廿四日以來敵ハ松樹山砲台前方ヨリ五家房南方斜面ニ直リ鉄条網線外ニ
地上約三尺高ノ杭ヲ散尺ヲ隔テ、ニ線ニ植立シ杭上ニ固着セル楔子ニ鉄線ヲ纏結シ
即チ電流ヲ通シテ突撃隊ヲ防止セントスルモノナルガ如シ但シ該線ノ東西端末点不明

土、三号砲台ト四号砲台トノ中間覆道掩護壁ニ通路アリ同処野砲二門アリ

土、五号砲台ト六号砲台トノ中間覆道掩護壁ニ通路アリ同処野砲六門アリ

土、水師營ノ西南蟠龍山ヨリスル鉄条網ハ水師營ノ南方ヲ過キテ龍眼北方ハ高地
附近ニ在小砲台ノ北方ヲ繞リ南折シテ八里庄ノ西方ヲ過キニ龍山ニ至ル

土、五号砲台ト六号砲台トノ中間斜面ニ小砲台アリ内ニ野砲二門(機關砲ニ非サル)アリ

土、六号砲台ノ東方斜面ニ連枕セル土壁アリ其北端ニ小砲台アリ野砲二門ヲ配置ス
此小砲台ノ西方覆道掩護壁ノ内方ニ加農一門(十三珊知?)アリ

史

0232

十七、六号砲台ハ外壕ナシ砲台ノ前方ニ塊ノ土壁アル而已

十八、七号、八号砲台共ニ外壕ナシ

十九、大孤山前ヨリ教場溝ニ通スル道路上ニ塹壕線ニ門ノ機關砲ヲ配置ス其上

方ニ掩蓋ヲ作レリ其下方鉄条網線ノ外方地隙ニ地雷四アリ又鉄条網内方大

岩石ノ傍ニケノ地雷アリ

二十、小孤山前ヨリ趙家溝ニ通スル道路ノ西側鉄条網線外ニ地雷アリ

二十一、趙家溝東北高地ノ砲台ニ外壕ヲ設ク深隔共ニ丈五尺計

二十二、三分二回上趙家溝東北約一千米安ニ在ル陸師藥庫ハ現ニ露軍ノ火藥庫ニ

使用シアリ

二十三、唠哩咀砲台東方ニ新築砲台ニアリ其南方砲台ハ主トシテ海正面ニ対シ其北

方ノモノハ堡塁ニシテ口至七八珊知ノ加農四門ヲ有シ外壕ニカボニエールヲ有ス

其外、斜堤外ニ鉄条網アリ

二十四、第八号砲台ヨリ以南ノ各砲台ハ新ニ土壁ヲ作り相連絡ス

三五元宝房南方清國旧兵營跡ニ砲台アリ内ニ鋼製砲(機関砲ナリ)四門ヲ備フ
 備考各砲台ノ備砲ニ就テハ確實ナル數ヲ得ス數士人ノ所言各異ナリ只々左ノ各
 砲台備砲ハ稍ヤ確實ナルカ如シ
 唠嘒咀南砲台榴彈砲六門 同北砲台榴彈砲四門
 唠嘒咀東方新築砲台加農五門 鉄橋ヲ有ス
 右砲台北方新築保塁、七八冊知ノ加農四門

通報

八月十八日
於双台溝

第三軍司令部



陸軍省人事局長ヨリ左ノ通り進級叙功叙勲相成リタ

ル旨電報アリ

月日	官等	氏名	進級	叙功	叙勲
七月二十六日	歩兵大尉	石川鶴男	任少佐	功五級	旭五等
全	歩兵少尉	高堂作治	任中尉	全	旭六等
全	全	高石栄吉	全	全	全
全	全	八田雄次	全	全	全
全	全	松木喜一	/	全	全
全	歩兵特務	高橋喜久男	/	功七級	旭七等
全	歩兵大尉	溝口晋	任少佐	功五級	旭四等
全	全	全	全	全	全

0235

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	合二十八日									合二十七日
歩兵少尉	歩兵中尉			歩兵特務			歩兵少尉	歩兵中尉	砲兵中尉	歩兵中尉
駒嶺忠男	吉田貞市	田中六藏	村上藤潔	井上義教	鈴木泰次郎	寺田行藏	石川真澄	大浦彦三郎	林正富	菅正
	任大尉		全	任少尉	全	全	任中尉	全	全	任大尉
全	功五級	功七級	全	功六級	全	全	全	全	全	功七級
旭六等	旭五等	旭七等	全	全	全	全	旭六等	旭五等	全	旭六等

0236

七月二十九日	全 三十日	全	全	全	全	全	全	全	全	全
歩兵中尉 村上作太郎	砲兵少佐 酒井甲子郎	砲兵少佐 大林南太郎	歩兵中尉 岩田外幾治	歩兵少尉 森本辰太郎	歩兵大尉 吉武忠吉	歩兵少尉 安池忠力	歩兵特務 大杉常太郎	全	歩兵少尉 永井亭吉	歩兵大尉 中村光議
/	/	/	任大尉	任中尉	/	/	任少尉	/	任少佐	任少佐
功五級	功四級	全	功五級	全	全	全	功六級	功七級	功五級	全
旭六等	旭三等	旭四等	旭六等	全	全	全	全	旭七等	旭六等	旭四等

0237

全	全	全	全	全	八月八日
全	步兵特務	全	全	全	步兵尉
全	佐上久太郎	中田博次郎	水室新藏	森本重太郎	沼田治郎
/					任少佐
全	印七級	全	印五級	印四級	印五級
全	旭七等	全	全	全	旭五等

陸軍一三三三二

0238

シ推遷ノ機務ニ考慮スルヲ旨トシ
 第三條本部長二人陸海軍將官ヨリ之ニ任シ本部長
 補佐シテ部事ヲ分擔整理ス
 第四條本部長不在ノトキハ本部長各分擔ノ部事
 代理ス

海軍大臣長里拜中代官
元一六五の長里

通報(八月三十日午前八時持参)

予ハ海軍大臣長里拜中代官

予ハ海軍大臣長里拜中代官

予ハ海軍大臣長里拜中代官

右通ノ報ス

0239

ヲ審カ

三軍副第四十九號

明治三十七年八月二十四日

海軍陸隊砲隊指揮官里井倅次郎殿
第三軍司令官男爵乃木希典

山縣參謀総長ヨリ本日无ノ
勅語ヲ傳達セラル

八月二十四日 午後五時發
同 八時着
謹テ左ノ 勅語ヲ傳達ス

旅順要塞本攻撃開始以來晝夜此堅城決死ノ守兵ニ
肉迫ニ遂ニ其二壘ヲ拔キ益奮進ノ途ニリト聞ク炎熱

0241

ノ候際ニ連日ノ困苦轉夕軫念ニ堪ヘス
卒ノ勇武ニ信賴ス爾將卒一贊夫レ九
功ヲ全フセヨ
朕深ク爾將

0242

三軍副第四二四號

明治三十七年八月二十五日 第三軍司令官男爵乃木希典

海軍陸戰隊砲隊指揮官尾井悌次郎殿

昨日拝受シタル 勅語ニ對シ左ノ奉答ヲ奏上スリ

奉 答

旅順要塞本攻撃ノ緒戰ニ於テ僅ニ敵ノ二壘ヲ攻略ニ對シ特ニ優渥ナル 勅語ヲ賜ヒ恐懼ニ堪ヘス 臣希典等 益奮勵誓テ 聖旨ニ酬ヒ奉ラムコトヲ期ス 謹テ奉答ス

0243

通報 八月二十六日午後六時
於柳樹房



一、昨夜十時五十分第一軍參謀長ヨリ左ノ通報アリ

軍ハ明二十六日拂曉カンパレイヨリ大轉子附近遠^三互^三高地線^三據ル敵ヲ

攻撃ス

二、昨夜九時四十分第二軍參謀長ヨリ左ノ通報アリ

軍ハ鞍山站附近、敵ヲ攻撃スル為メ二十五日早朝ヨリ運動ヲ起メ

三、昨日午後^三時三十分參謀總長ヨリ左ノ通報アリ

貴軍ノ情况ヲ承知ス之カ為メ當局者ヲレテ將校以下ノ補充輸送

増加、攻城器具及重砲彈藥ノ輸送ヲ急セツ、アリ

四、昨日午後七時東郷聯隊司令長官ヨリ左ノ通報アリ

貴軍連日ノ勇猛ニ劇戰將士疲勞モ少ク、カタル殊ニ多敷ク

0244

傷者ヲ生セラレタル趣唯々深く同情ヲ表スルノ外ナシ陸戦重砲隊ニ
増執スル為メ更ニ十二珊知砲四門ヲ取寄セ中ナク四五日中ニ到着スル
ト豫期ス尚ホ十二珊知彈藥六百發十二听砲一千發ヲ補充トシテ昨日
前送
シタリ旅順ノ敵艦中セバストポールハ一日、駆逐艦二隻ハ昨日我機
械
水雷ニ四隻リ駆逐艦一隻ノ外沈没ニ至ラサリシモ戦鬨カハ當分失
ヒタルモト認ム貴軍再度ノ攻撃開始迄ニ其敵艦ノ修理ヲ遲延
セラルル為メ時々造船所及碇泊軍艦ノ間接射撃ヲ施行セシメラルレバ
幸ナリ

五、昨夜十二時参謀次長ヨリ左ノ通報アリ

二十二日^夜旅順ヲ出ラ二十三日芝罘ニ来リト支那人ヨリ得タル情報左ノ如シ
毎日死傷者非常ニ衆ク人カト馬車ヲ運搬シ五隻ノ汽船ヲ病院船

0245

トシテ既ニ満負トナリ尚ホ民家ニ収容シツテアリ治療ノ手當届カス呻吟ノ聲四方ニ聞ヘ悲慘ノ有様目モ當テラレス

日本軍ノ砲撃熾ニシテ殊ニ大ナル砲彈ノ地中六尺モ入りテ破裂スルハ附近ノ建物微塵ニ碎ケ慘憺ヲ極ム旅順ニ在ル軍艦ハ水線以上大砲ヲ受ケ又々船渠モ大破損シアリテ士官ノモナク逃走セリ

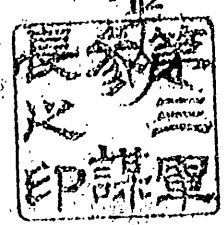
第三軍参謀長 伊地知幸介

0246

第四八一號

明治三十七年八月十七日 第三軍參謀長伊地知並

海軍陸軍省能務局長岡井悌次郎殿



右記之通り陸軍次官ヨリ電報有之候間及通牒

皇陛下ヨリ狂侍醫 皇太子殿下ヨリ尾藤少佐

ヲ貴國ニ差シ遣サレ

0247

訓示

八月三日午後四時
於柳樹房

過般滿州軍總司令官ヨリ彈藥節約、疾病豫防ニ関シ左ニ訓示
アリ各部團隊長ハ宜シク其趣意ヲ體シ部下ヲ戒飾シテ缺漏遺
洩ナキヲ期スベシ

一、速射銃、砲發明アリテヨリ射撃ノ速度著シク増大シ之ヲ既往ノ戰役
ニ徴スレハ亂射ノ弊ニ陷リ易キ傾キアリ限リアル製造力ト運搬力
トヲ以テ無限ノ需要ニ應セシテ殆ント不可能ノ事ニ屬ス今後ノ開戰
ニ於テ萬一決戰射撃ノ時期ニ際シ供給ノ続カサル如キユトアラハ實ニ
由々敷大事ニシテ寒心ニ堪ヘサルモノアリ宜シク各級指揮官ヲシテ
爰ニ留意シ確乎タル効力ヲ認ムルコトナク亂射ニ陷ル如キハ嚴ニ
戒飾シテ彈藥ノ節約ヲ全クシ以テ決勝ノ需要ニ應セシメラレン

0248

トヲ要ス

内外古今ノ戦史ニ徴スニ疾病殊ニ傳染病ニ因ル惨害ハ却テ戦闘場裡ノ
損害ヨリ甚シキヲ見ル大ニ戒慎スベキコトトス今ヤ兩期正ニ過キントシ滿
州ノ野常ニ兩期後ニ於テ悪疫ノ發生スルコト多キハ晨ニ經驗スル
処ヨリ各軍ニ於テ其衛生機関ヲ督勵シ是等ノ豫防ニ遺算ヤリ
ルベキハ巖ノ信スル處ナルモ我作戰ノ前途尚ホ遼遠ナルヲ思ヘハ轉
々焦慮ニ堪ヘサルモノアリ茲ニ聊カ所感ヲ陳シ各官ノ注意ヲ促
カサントス各官宜シク其部下各機関ヲ督シ全軍衛生上其毫モ遺
感ナキヲ期セヨ

陸軍司令官野澤乃木忠義

0243

ナリ人負ヲ平均轉換レ、アルカヤ現下ハ輔重兵ヲモ戦負トシテ使用
ツ、アリト云フ

其六、日本軍ノ勇敢ニテ連続スル攻撃ト砲彈ノ猛烈ナルニハ大ニ避易シ居ト云フ
其七、傷病者ハ目下病院ニ充滿シアリテ最早收容ノ餘地ナク徒テ陣地ニ遺棄セ
ル者アリト云フ

其八、麵包ニハ乏シカラサルモ肉類ナレ、ハ銃彈ハ十分ナルモ砲彈ハ大ニ缺乏ス

四、晨日タルニ碇泊場司令官今橋歩兵大佐第三軍兵站監ニ任メテ瀨名砲
兵大佐其後任トナリタル旨通報アリ

五、去テ一日夜繁細谷司令官ヨリ左ノ要旨ノ通報アリ

二十日午後ヨリ二十一日午前ニ直リ我軍艦千歳及對馬ハコルサコフレ(宗谷
海峡)ニ於テ敵艦ノ一ウイツヲ撃沈シテ之ヲ破壊シ同艦ハ淺瀬ニ乗上ケ
半ハ沈没セリ

我對馬ハ信濃ヲ撃タレシ浸水シタルモ航海ニ支障ナリ又々兵負ニ死
傷ナレ

第三軍參謀長伊地知幸介

明治三十七年八月三日 第三軍司令官男爵乃木希典

陸軍省陸軍部 抄 支 里 三 井 併 併 以 証 在

參謀總長ヨリ本日左、 令吉ヲ傳達セラル

八月二十八日 午前十時十分 午後十時十分 着

皇太子殿下ヨリ左、 令吉賜ハル

連日連夜敵、堅固ヲ攻撃シ、不屈不撓、遂ニ其一部ヲ奪
取シタル第三軍將卒、極メテ勇敢ニ動作シ、嘆賞ス

第三軍司令官部

0252

奉 令旨ハ當分秘密

奉 答

旅順要塞本攻撃 續戦ニ於テ僅ニ敵壘一部ヲ奪取ニ
對シ特ニ優渥ナル 令旨ヲ賜ヒ恐懼ニ堪ハス 希典等 益
奮勵誓テ軍ノ任務ヲ達成セシコトヲ期ス
謹テ奉答ス

筆 榻 板 用

0253